

浅羽野2号墳(坂戸市)

正面前方の一寸したマウンドに赤い鳥居が見える/左手は東武東上線(前方が坂戸駅方面)



東側から見たところ



このマウンドが浅羽野2号墳/円墳



境頂は稲荷社となっている





境頂から振り返って見たところ/電車が通っている



南東側から見たところ



西側から見たところ



南西側から見たところ



ところで、第27回坂戸市埋蔵文化財出土品展の展示資料によると・・・



まず前提として、越辺川との合流地点にほど近い高麗川南岸の一带の「浅羽野」では、古墳時代前期(約1650年前)は弥生時代以来の墓制である方形周溝墓の造営が長く続き、確実な古墳の出現は古墳時代終末期(約1350年前)になると云う

北と南 ふたつの盟主墳

近年、長らく円墳とされてきた浅羽野2号墳の発掘調査が行われ、その結果、古墳ではなく一辺約20mを超える方形周溝墓であることが明らかになりました。宮裏遺跡10区で発見された13号方形周溝墓(一辺約25m)と並んで、一帯に広がる方形周溝墓群のなかでも突出した規模を誇ることから、この2基は地域の実力者を葬った「盟主墳」であったと考えられます。

2基はほぼ同時期に築かれており、ある時期のこの地域には2人の実力者がいたこととなります。浅羽野2号墳は方形周溝墓群の最北端に位置し、13号方形周溝墓とは1km以上離れていることから、地域の南北をそれぞれの勢力範囲として分け合っていたのかもしれない。



図) 浅羽野2号墳の周溝

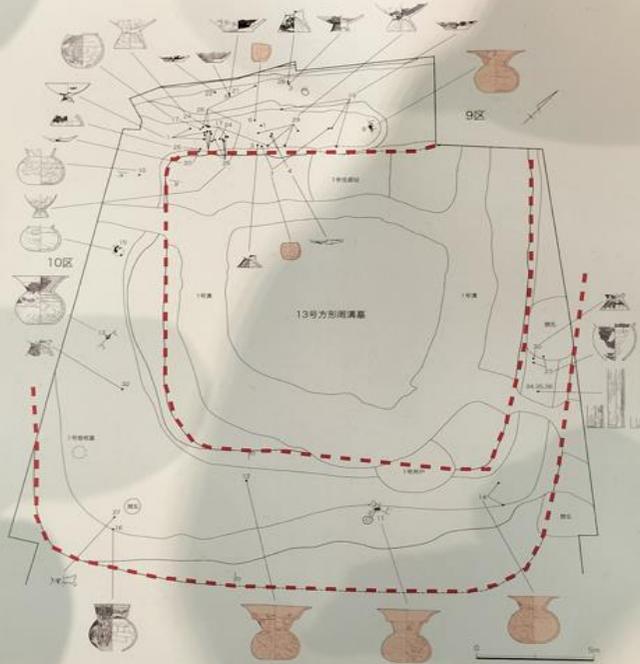
写真右側のしげみは墳丘の高まりが残っているもの。

浅羽野2号墳から出土した土師器の壺(下記写真)は、古墳時代前期の土器に分類されると云う/つまり、弥生時代からの墓制である方形周溝墓と判断されたようだ/墳丘は古墳のように高いが、これは後世に墳頂に祠を祭るために土盛りされた可能性や、周辺が土取りされて相対的に高くなった結果とも考えられると云う



同じ地域の同時期の宮裏遺跡第13号方形周溝墓も、同様の様相を見せているようだ





みやらの
宮裏遺跡 10区 13号方形周溝墓

しゅうこう
周溝から大量の供献土器きょうけんつどろが出土しました。

とくに壺型土器つぼがたつどろ（焼く前に底に穴をあけた儀礼用の土器）が
多く出土しています。

（色付き＝展示している土器）

宮裏遺跡から出土した古墳時代前期の土師器の台付甕(東海系S字状口縁)



同じく、土師器の甕(北陸系有段口縁)



薄いつき上がりで、口縁部の断面が「S」字状になっている 東海系の甕

土師器 台付甕
(東海系 S字状口縁)

宮裏遺跡 10区 古墳時代前期

穿孔

古墳時代前期

口縁部から頸部にかけて厚くなり、
胴部との境目に段をもつ 北陸系の壺

はじき かめ
土師器 甕
(北陸系 有段口縁)

宮裏遺跡 10区 古墳時代前期

10区-1-25

